

経営比較分析表（令和4年度決算）

福岡県 粕屋町

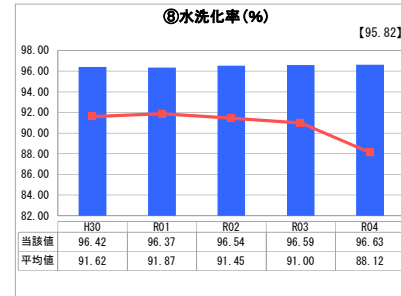
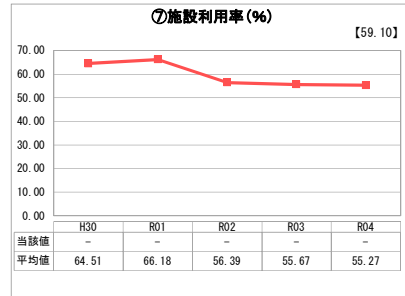
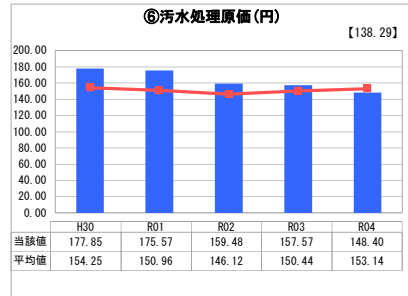
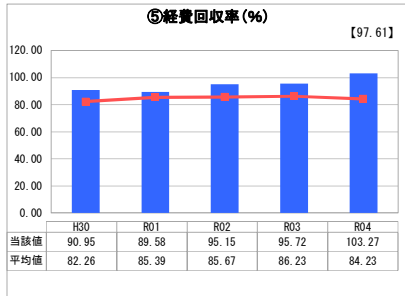
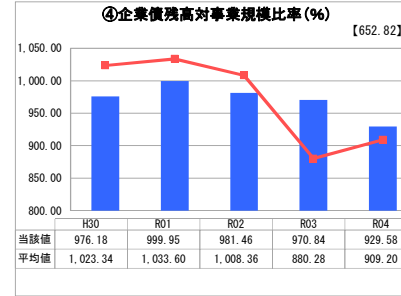
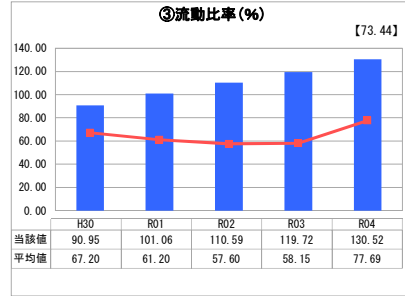
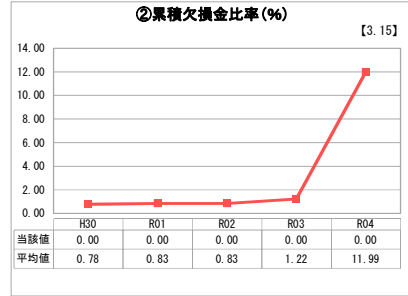
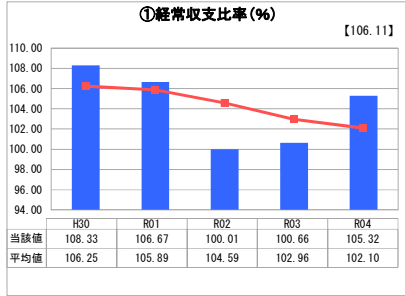
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bc2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	57.38	98.27	96.22	2,750

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
48,933	14.13	3,463.06
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
47,985	7.69	6,239.92

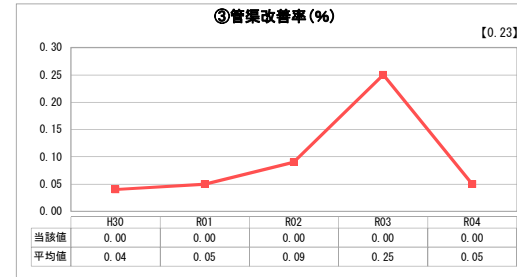
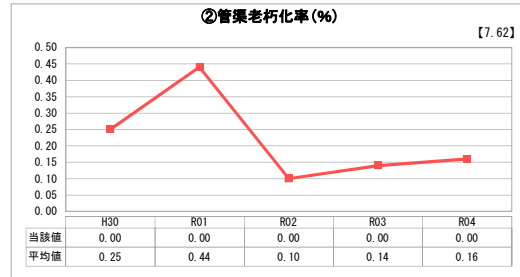
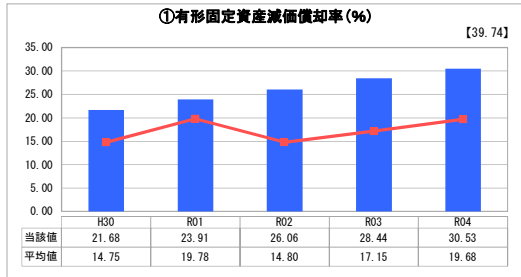
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- [] 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

流動比率が伸び、類似団体平均値を大きく上回っている。債務に対し償還が確実にできており、資金繰りは問題ないと考えられる。経常収支比率は類似団体平均値を上回り、100%を超えているため、経営状況は悪化している状況にはない。しかしながら、更新投資等に充てる財源の十分な確保には至らない状況にある。経費回収率が令和4年度において100%を超えている。当町は水循環再生下水道モデル事業を汚水事業で行っており、その経費がかかっているが、このモデル事業費を含めても、100%を超える経費回収率を維持できるよう、取り組みを継続する必要がある。

面整備はほぼ終わり、水洗化率は96%超と高率なことから、使用料収入による収益の伸びは見込めないため、料金改定も視野に入れた中長期的な計画を策定し、将来の管渠更新等に備えた留保資金の確保が必要である。今後も引き続き維持管理費の削減に取り組む等、効率性の向上を図る必要がある。

2. 老朽化の状況について

現在、法定耐用年数を超えた管渠等はないものの、年々老朽化は進んでいるため、将来の更新時期へ向けて、適切な投資計画を立てる必要がある。

全体総括

経常収支比率や流動比率が100%を超えており、現在の経営状況について、悪化している状況にはないと考えられる。しかし、水洗化率はすでに高い水準に達しており、収入の柱である下水道使用料の大幅な伸びは見込み難い。今後の人口の推移、将来に向けた管渠等の更新も見据え、バランスの取れた計画的な投資を行う必要がある。次期経営戦略の策定に向けモニタリングを行い、使用料金改定の検討も必要である。

そのため、今後経営状況が悪化することないよう、上記の方策を通して、より効率的な経営を進めなければならない。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。